

思います。主要なメンバーの方が揃って研究されていると思います。ですから、そういった研究報告に合わせて今後の東高原発展策、いずれにしても町はスキー場からは撤退するということとなりますから、その後のことについては是非、研究委員会、そしてまた町も積極的に東高原についての観光方針を練り上げていただきたいと思うわけであります。以上で終わります。

○議長（清水満） 渡邊議員、ご苦労様でした。

暫時休憩に入りたいと思います。再開は14時15分にしたいと思います。

休憩 午後 2時 1分

再開 午後 2時15分

---

◇ 清 水 均

○議長（清水満） それでは休憩前に引き続き会議を再開します。

一般質問を続けます。

発言順位10番、議席番号1番、清水均議員を指名します。清水均議員。

〔1番 清水均 登壇〕

○1番（清水均） 議席番号1、清水均です。質問通告に従いまして順次、質問させていただきます。最後ですから、お疲れのことと思いますがよろしくお願いたします。

最初に、高齢者が急増する中で、新たな住民サービスの実施についてお伺いいたします。

飯綱町の人口は、平成24年の1万2,100人に対し、平成29年12月31日現在で1万1,326人と774人に減少しております。

また、高齢化率も我々の世代が後期高齢者、75歳以上となる2025年頃には約40パーセントに達していく状況にあります。福井団地地区においても65歳以上の高齢者が約43パーセントになることが予想されております。

その中で、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう医療、介護予防、住まい、生活支援など、多面的な住民サービスが求められます。そこで順次お伺いいたします。

自動車運転免許返納者の増加により、通院や買物等への足の確保が必要になります。こうした見地から、アイバスの運行事業を改善する必要はないかについてでございますが、初日の町長のあいさつの中で、長野往復 400 円とのことであり、高齢者には非常に助かり、大いに利用したいと思います。

先日、福井団地の方からの電話で 30 年もこの団地に住み、退職後、農業もなく、昨年までは良かった除雪も今年は悪く出勤時に家から出られない。帰って来れば入口の周りに硬い塊があり車庫に入るのに一苦労。自動車運転免許証返納後の足の便も悪く、将来の展望がなく、魅力のないこの地域から出ていきたいという方がたくさんいます。今、私は家を売る見積をしてもらっているところですので電話で約 45 分も話をしていました。他の自治体の後を追うようなことの事業をしていたのでは、この町から出て行ってしまいます。何事も先、先へといかないと置いていかれます。

研修に行った南箕輪村も、他の自治体より早く実行したことにより人口が増加したとのことでありました。この事項については一定の評価をしております。

次の事項に入らせていただきます。括弧 2 でございますが、ごみ出し困難者対策として、行政と区・組・班などが協力し、高齢者対策の 1 つとして具体化すべきではないか。実例として、福井団地内でごみ出しに行く途中、お年寄りの方が倒れていたのです。大丈夫かと聞くと、大丈夫だと言っていた方が、その 2、3 日後に亡くなられたとのお知らせがありました。ごみ出しが原因かどうかは分かりませんが、これからこのような困難者が増加する可能性があります。未然防止策として、この対策をどのように考えているかについて町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 具体的にごみの対応というご質問でございますけれども、実は、これは他の地域におきましても特に冬期間ごみステーションまでの間、非常にご苦勞が多い。そこら辺、何とかならないものか。こういうようなご質問が区長さんからあった時代がございました。

何とか地域の中で正しく助け合いとか、そういうことで補填、カバーしていけないかという

お話でその当時は済んだわけでございます。ただ、お互いにごみを、あまり第三者に見られるというのうれしいことではないというお話もお聞きをしております。

特に福井団地等々の、あの様に住宅が集中している地域において、しかも尚且つ冬は非常に雪の消えるのが遅い、日陰の多い地域でございます、足元も非常に危ないという地域。本当に収集というものを、どういうふうに考えていけば良いか。ご提案のとおり、もちろん地域の皆さんたちのお手伝いも充分考えなければならぬと思いますけれども、行政としてのソフト面でのサービスというものを、どういうふうに展開をしていくか、また担当課とも十分に相談をする中で研究していきたいと思っております。

○議長（清水満） 高橋保健福祉課長。

〔保健福祉課長 高橋明彦 登壇〕

○保健福祉課長（高橋明彦） それではお答え申し上げます。ただいま町長が申し上げたとおり、昨年作成しました地域福祉計画の中にも記載してあるわけですが、住民一人の努力、自助、共助、互助の精神が大切だろうということで、地域のコミュニティの活性化が必要であろうというような記載をしております。

ただ、具体的にということでございます。現在、つながり隊、元の名称は地区福祉推進委員というのがありました。現在はつながり隊という名称で呼んでいます。これは地域において、いろいろな除雪の支援やごみ出し等の助け合いを地域で支える仕組づくりということで、今、社協が率先してやっているところでございます。

現在、ごみ出しなどの助け合いにつきましては、福井団地も入っているわけですが、20の地区でごみ出しの助け合いを行っているという状況の報告はいただいております。その他に29年度にできました有償助け合いサービス。家事援助とか日常生活の支援など、地域の皆さんの協力を得ながら、お互いさまの気持ちというようなかたちで地域を助ける仕組でございます。これは有償でございますので、お金が必要だということですが、昨年からでございますので、まだ人数的には少ないわけですが、相談者が67名ほど昨年はおりました。利用会員は現在15名です。協力会員と言いまして、ボランティアで助け合う方々が40名という

ことで、述べ回数とすれば 150 回程度やっておりますけれども、この中の一番多い相談件数でございますが、一番多いのは庭の草取りとか、木の枝の伐採が一番多いです。その次が除雪で、ごみ出しというようなかたちでボランティアさんが実施しています。

これにつきましては、基本的には 1 時間 500 円というような有償の助け合いでございます。ただ、ごみ出しなどは短時間で終わりますので、1 回 500 円ということではなくて、何回か分けて、その合計時間が 1 時間程度になったら 500 円というような仕組づくりを今やっております。

ただ、有償助け合いにつきましては、今後、各地域にもっと周知しまして、できるだけ大勢の皆様が助け合う方、支え合う方、マッチングできるようなコーディネーターさんも今おりますので、是非、強力に進めていきたいと考えております。

○議長（清水満） 清水議員。

○1 番（清水均） 現在はそれで良いかもしれませんが、これから先、25 年先とか、そういうのがありますので、その対策として取りあえず今やっていることについてお願いしたいです。

今現在は、若い人たちがまだいるからいいけど、我々が 4 本足になってからでは具合悪いものですから、今からこの対策を考えていただきたいということをお願いしたいと思います。

次に、福井団地内のメイン通りの歩道と個人宅への段差対策は何回か質問しているところでございますが、その後の検討はされたかについて伺いいたします。

また、今年の総会でも話題になりました。散歩したり、動力車を運転すると段差がついているため、危険を伴うことが予想されるので、次善対策として 1 メートルぐらいは水平にしてやることはできないかについて、町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 森建設水道課長。

〔建設水道課長 森佳也 登壇〕

○建設水道課長（森佳也） お答えいたします。昨年 28 年 9 月の議会で清水議員さんから質問がありました。

福井団地内の歩道の一部の段差の解消のため、試験的に工事を実施するというのを今年度、

建設課では目標に挙げておったわけですが、実際にはできておりません。誠に申し訳ございません。

今後、了解を得られたというか、地区選定をいたしまして、早急に実施し、効果の検証をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 是非、よろしくお願いいたします。少しずつお願いしたいと思っております。

次、括弧4に入ります。高齢者の行方不明対策は人命にも関わる問題でございます。行政と区・組一体となって対応するためのマニュアルが必要と考えられますが、例えばGPS付きの腕輪とか、QRコードの活用、要所には防犯カメラ等の設置を考えられないか、このことについて町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 高橋保健福祉課長。

〔保健福祉課長 高橋明彦 登壇〕

○保健福祉課長（高橋明彦） お答えを申し上げます。保健福祉課の方では、認知症の方が行方不明になった場合という対策でお答えさせていただきたいと思っておりますけれども、区や組内で、地区内で対応して早期発見というのが認知症の発見については非常に有効であるとは考えております。ただ、認知症の方で、プライバシーの保護という観点からなかなか公表されていない方もおりますので、慎重に対応しなければいけないという課題が残っております。

日頃から地区の皆さんでいろいろな議論をしていただくというのも1つの方法かと思っております。ただ、いざという時には、地域の人々の力は非常に頼りになるということは理解しております。家族なり、ご本人なりがそういうサポートを必要としているかということ、まず本人に確認していくということが必要であると思っております。

認知症の方についても人権があるということで、いろいろなGPSを勝手に付けていいのとか、そういうお話とか聞きますけれども、認知症の方も人権がある。自分の意思ではないものを勝手にというようなことを言われる方もおりますので、その辺はよくご家族と議論しながら考えていかなければならないと考えております。

ですので、マニュアルの作成につきましては、区や組など相談があった場合については対応していきたいと考えております。

また、今、GPSとか監視カメラとかいろいろお話がありましたけれども、現在、社会福祉協議会と連携をしながら行方不明者の搜索訓練を計画しながら、地域住民の皆様と一緒に協働できるような訓練を実施していきたいと考えております。以上です。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） GPSは当然家族と相談しながらやらなければならないです。犬や猫と違うですから、その辺をよく考えていただいて、家族で危ないということになったら、何かしないと。無線で話したって解決になりませんから、よろしくお願ひしたいと思います。

次の事項に入らせていただきます。地方創生に伴う事業の進捗状況についてお伺ひいたします。

1として、高岡地区活性化委員会の報告書が全戸に配布されました。西小学校の跡利用はどこまで具体化されたかについては、109 高岡活性化プランの16 ページに牟礼西小学校跡地利用の具体化に関する提案がいろいろ示されております。30 年度予算には西小学校の行方が示されておられません。

アンケートでは、福祉施設に活用するが37 パーセント。その次が、高岡地区の中核施設として活用するが24 パーセントとなっております。

何を優先して、いつ頃からスタートするのか、また高岡農協下の体験住宅施設、旧小林様宅のところですが、活用状況についても町長にお伺ひいたします。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） それではお答えをさせていただきたいと思ひます。議員、おっしゃる高岡地区の活性化プラン、皆様にもお配りをさせていただいたところでございますが、この中に委員会からいろいろなご提案をいただいております。

基本的には提言書や、今、議員からもお話のありましたアンケート結果などによりまして、

地域の特性を生かした都市との交流拠点施設として、国の交付金を活用しながら整備を進めてまいりたいと考えているところでございますけれども、具体的な活用方法をというところでございますが、まず学校のメモリアルルーム、それから高岡地区を中心に地域の皆さんが交流、内容につきましてはこれからですけれども、例えばパワリハなども有効ではないかと思っております。そういったスペース。それから児童クラブ、こういったものは予算の際にも説明があったかとは思いますが、設置をしていきたいということで既に決まってきた部分でございます。

その他ということでございますけれども、都市交流における体験の拠点ということで、農泊などとも連携しながら進めてまいりたいと考えているところでございますし、6次産業化における加工施設としての利用についても検討を進めておりまして、今回の広報でも紹介させていただいておりますけれども、複合的な施設ということで、活用方法が少しずつではありますけれども、具体化してきているというところでございます。

本年度におきましては、高岡地区の委員会を中心に既にご存知かと思っておりますけれども、1月、それから2月にスキー場を活用したイベントですとか、3月の3日から4日にかけては、モニターツアーということで、魅力発掘、自然体験ツアーということで都市部の方においでをいただきまして、体験プログラムということで体験などもしていただいているところです。まだ学校を使っておりますので今回のこういった体験ツアー、モニターツアーにつきましては学校を使用するわけにはいかなかったわけですが、こういったものについても今後空いてきますので跡施設の活用として、拠点として、西小学校を活用してまいりたいと、そんな予定でいるところでございます。

また、この3月11日の日曜日になりますけれども、飯綱事業チャレンジということで開催をさせていただきます。ここで、いろいろな事業の提案をいただくわけでございますけれども、提案があった事業についても、跡地を活用していただけるようなものについては積極的に取り込んで、是非こういった提案の中から跡地を利用する方が出てきていただければ有り難いと考えているところでございます。

なかなか、学校がどうなるのかが見えづらいということでございますけれども、今回広報で紹介をさせていただきました。主には第二小学校のことを紹介させていただきましたが、今後は分かりやすい図面等も提示しながら、広報等でまた住民の皆様にお知らせをしてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから体験住宅の状況でございますが、28年度の状況で恐縮でございますけれども、28年度では4件ほど申込みがございまして、このうち一組については飯綱町の方へ移住をさせていただいている状況でございます。

今年につきましても既に去年を上回る実績でご利用いただいております、その中でもまた一組、飯綱町の方へ既に移住をいただいているという状況でございますので、よろしくお願いいたします。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 西小学校へ木工機械の導入、心待ちしているわけですが、町長どんな状況でやられるかお願いしたいと思っております。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 西小学校の1つの教室を使いまして、東京から指導をしていただける、機械を寄附していただいている方に来ていただいて、いよいよ実施をしていくということですが、希望としては教える方の側の方が、しっかり教えたいので、将来的に木工をやっていくそういう気持ちがある人には是非教えていきたいという希望も出されておりますので、今、受講生を募集する中で、いよいよ4月以降でスタートしていきたいと思っております。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 是非、仲間に入れてお願いしたいと思います。109 高岡活性化プランの実行に当たっては強力なリーダーシップが必要だと思います。行政のバックアップと同時に重要と思いますが、町長の見解をお願いしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。



〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） リーダー的というのは、検討委員会のリーダーでもあったり、これからいろいろ運営をしていく上で学校の施設を利用したり、いろいろな人たちにあっせんをしたり、PRをしたり、収支を取ったりというような全体のリーダーは、何とか町内の人でやっていただけないかという打診をしているところでございますけれども、今のところ、まだ確約はいただいてはいないわけですが、かなり興味を持ってやっていただけるというニュアンスをつかんでいますので、是非そんなリーダーとともに町としてもバックアップしていきたいと思っています。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 是非、よろしく願いいたします。

次に括弧2でございますが、かつて町長は赤塩地区の子どもを50人増やすと新聞に大きく報道されました。その後、どのような努力をし、成果が挙げたかについてお願いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 元旦でしたか2日でしたか忘れましたが、大々的に記事になったことは承知しております。

赤東地域に5年で50人ぐらいの子どもを増やしたいという希望を申し上げました。赤東地域は皆さんご存知のとおり、扇平団地から奈良本まで400を超える戸数で運営をされている地域だと思っておりますけれども、その中で10人の子どもが増えないままでいくというのは、非常に寂しいと思います。1年で10人程度の子どもさんが増えるというのは、そんなに極めて異例な計画かと考えてみますと、極めて冷静な私は数字だと逆の意味で思いました。

上赤塩という地域は100軒を超える。毛野も100軒を超える。その中で子どもたちを何とか2人、3人、両地区で5、6人、あと奈良本、扇平、下赤塩、東柏原で2年、3年で3、4人ぐらい増えないかという、これはそんなに無理な数字であるかと思っはいるわけですが、正直言ってなかなかそのとおりに増えていないという現実を見ますと厳しいですが、27年

の正月にその記事が出たと思いますが、27、28、29のこの3年間でいきますと、27年度は生まれた子どもが7人で、転入してきた子どもが5人。28年度は生まれた子どもが7人で、転入が4人。昨年が生まれた子どもが3人で、転入してきた人が6人。これでも転入して来なければ、少ないわけでございますけれども、それでもこうやって転入してきていただける家族、子どもさんがいた、1年に11、2名の子どもが増えた。3年間で三十何人という数字です。

これから、いよいよ第二小学校の跡地利用、そして上赤塩から始まって毛野にも新しく農家住宅を建設して、新しい若い夫婦に来てもらえばいいと思っていますけれども、場合によれば集合住宅、アパートみたいなものも必要によれば建設を考えたいということも地域で申し上げてきております。そんなことをトータルしていけば、もしかすれば結構な数字が出てくる、少しそんな雰囲気もございます。

ちなみに、福井団地で若者定住住宅を10年ほど前にアパートで8戸、それと一戸建てを10軒ほど造りましたけれども、26、7軒で、その時に子どもさんは18歳以下でございますけれども、83人も入ってきたわけです。ですから受け入れる、やはり住宅の整備というものも必要だと思います。来て欲しいと言っても、住む場所は自分で探せという今の現状ではなかなか良い数字が出てきておりません。是非、そんなことをトータルで整備をして、何とか子どもを計画どおりの人数を確保していくような方法で精一杯努力したいと思っています。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） よろしく願いいたします。

その次、キッチンカーの活用状況についてですが、よろしく願いいたします。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） その前に申し訳ございません。先ほど議員からご質問のありました体験住宅の関係で詳しい資料が手元にありましたので、改めてお答えをさせていただきたいと思いますが、28年度4件の申込みがありましたと先ほど申し上げましたけれど、実際には冬場でしたので、1件の方がご利用いただいただけで、その方が先ほど申し上げたとおり、こちらの

方へ移住をされてきたということでございます。

29年度につきましては、9件、延べで36日間のご利用がありました。人数は25名。実人数で25の方がお見えをいただいております。29年も1件の移住があったというお話を申し上げましたが、2年間で二組7名の方、子どもさんがいらっしゃる方ですけれども、二組7名の方が実際、飯綱町へ移住をされてきたという移住体験住宅については、そんな状況でございます。

続きまして、ご質問のキッチンカーの活用状況でございますけれども、キッチンカーにつきましては、平成28年度末に導入をいたしまして、主には本年度から活用をしております。

各種イベントの際、コーヒーなどを無料で振る舞っております。29年度につきましては現在13か所で、町や地区主催のイベント等に活用を図っているところでございます。

主なところでは、地区のお祭りにも活用をさせていただいております。芋川地区のお祭りに出掛けたりですとか、岩崎観音のお祭りの際に活用したり、また第二小学校で赤東地区の神楽が集まるイベントもございましたけれども、そんなところでも大勢の方にご利用をいただいている。また、りんごの里まつり、ママフェスタ、そんなようなところで活用をしているところでございます。

活用状況ということですが、今後のことも若干お話をさせていただきたいと思っております。昨年の10月に営業許可も取得をしております。今まで無料で振る舞ってきたわけでございますけれども、今後は販売というのも計画的に行っていきたいと考えているところでございまして、町外のイベント等にも積極的に参加して、町のPRができればということで考えております。

また、コーヒー、飲物だけではなく、飯綱町産のそば粉を使用した例えばガレットですとか、りんごを使った飲物なども提供していけるように研究、検討してまいりたいと考えているところでございます。よろしく願いいたします。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 冬の間、ZQ（ずく）に置いてあったものですから、話を聞いてみました。

次、貨客の関係ですが、これ当初に話していただいているものですから、これを飛ばしたいと思いますが、せっかくですから長野から平出間の1日当たりのバスの利用客は、もし分かっていたらお願いします。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） 前回28年に乗降調査をやりまして、その時の牟礼線の飯綱営業所から見晴間の利用者ということですが、1日30人ぐらいの方が利用されている。その2年ほど前にもやっておりますけれども、その時も40人ぐらいの方が利用されているという状況でございます。

あと今年度、地方創生の推進交付金をいただく中で、公共交通の見直しの作業やっているわけですが、その中でもやはり乗降調査をやっておりますので、その状況につきまして、またご報告できる時に報告してまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） それでは次の項目に入ります。日本一のりんごの町についてお伺いいたします。

第2次総合計画において、日本一のりんごの町を重点挑戦分野に位置付けしておりますが、そこでお伺いいたします。この10年間のりんごの栽培農家数及び栽培面積の推移、つまり増減について町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それでは答弁させていただきます。直近の世界農林業センサス、3年前の2015年でございますが、その数値を見ると、りんごの販売農家の栽培農家数は640戸。栽培面積は390ヘクタールになっております。

この2015年数値を30年前の数字と比較いたしますと、りんごの販売農家は30年間で50パーセント減少して、りんごの栽培面積は30パーセント減少しているような状況でございます。

続いて、10年ごとの増減率を見ますと、1995年から2005年までの農家数及び栽培面積の推移は、いずれも10年間で農家数、栽培面積とも25パーセント減少と大幅に減少しております。

そして、直近10年間、2005年から2015年までの農家数及び栽培面積の推移は、10年間で農家数は20パーセント減少して、栽培面積は10年間で10パーセントの減少にとどまっている状況でございます。栽培面積の減少が農家数の減少より穏やかなのは、りんご栽培の集約化が進んでいることが原因と分析をしております。以上でございます。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 次へいきます。括弧4として、農業所得は平成17年と平成28年を比較すると町全体で約5,600万円の増収となっております。年によって増減があるが、所得の安定化のため、町としての対策はあるかについてお伺いいたします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それでは答弁をさせていただきます。町は農業振興の1つに儲かる農業を目指しております。農業所得については議員の発言のとおりですが、飯綱町で最も悪かった時期である、平成22年、23年の農業所得はマイナスでございました。その後、順調に農業所得が回復をいたしまして、平成28年は合併後、初めて農業所得が3億円を超えている状況でございます。

町は、農業生産に関わる支援を積極的に行っていますが、所得の安定化に向けての対策については、農産物の販売価格が市場への需要と供給によって決定されたため簡単ではありませんが、町はJA、振興公社、農家の皆さんが加入しておられます6次産業化推進協議会等の意見を参考にしながら、農産物のブランド力の向上、農産物のPR、あと町内の直売所の支援、これから計画をしております農産物加工所の整備など、様々な施策を組み合わせることで農業者の所得が向上できるよう努力をしてみたいと考えております。以上でございます。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 次の項目に入らせていただきます。役場庁舎等の建設資材としての地元産カ

ラマツの使用についてでございますが、役場庁舎建設については報道の方が先行し、増改築に鉄骨3階建て、19年度完成予定とありました。一昨日、設計図を見たところ、あまりにも町のシンボルとなる建物としては複雑な感じがいたしました。公共の建物には町有林の財産を今回使用すべきと考えておりました。

行政報告書によると、飯綱町町有林の間伐面積は、平成21年から25年までで96.58ヘクタール行っておりました。それ以降は間伐がされておられません。最初に間伐が行われてから10年以上経っておりますが、実施する必要があります。

予算書には、間伐木材などの活用推進とありますが、そこでお伺いいたします。カラマツ林の50年以上で最初の間伐から10年以上経過しているため、町有財産の良質材を育て、価値を上げるとともに針広混合林による土砂流出、水源かん養のためにも、更新伐、間伐を実施し、その後カラマツを植栽し、更新していくのも1つの考えと思います。

また、平成30年予算要望についての回答でございますが、3ページで町有林の中に主伐の時期が来ている箇所があるとのことですが、林齢50年程度では加工材としてしか使用できません。材として使用するには最低でも80年、100年以上必要とするものであります。更新伐を実施した後に場所を選定し、レンゲツツジと紅葉のある樹木を植栽し、原風景に戻すことも考えられます。この2点について町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 議員は林業に非常に詳しく精通しておられる方ですので、とても私はそれだけの深い知識がございませんけれども、役場庁舎の建設において、町有林、若しくは飯綱町産の木材を使った建物で考えて欲しいということは、長野森林組合等々からも強い要望がございました。

また、近隣の国有林などを見ますと、国有林は主伐の時期を迎えている。その時期になると、二酸化炭素を吸って酸素を出すという機能も若い木に比べれば、だいぶ見劣りもするので、是非、主伐を考えて木を使って欲しいというお話でございました。スギ、ヒノキ、カラ

マツとかという諸々あるわけですがけれども、議員は今、カラマツを使ってその活用を考えたらどうだという、またそれも、いわゆる 50 年になった木をまた間伐をして、そして残った木はもっと良い木になるだろうというご提案だと思っておりますけれども、どうかたちが一番ベターなのか、木を使うということを前提にしながら、せっかくの機会ですので町有林等々の活用も含めた上で森林組合等々と相談をして、一番良いだろうという方向の中で精一杯木材を取り入れるようなスタイルで考えていきたいと思っております。

○議長（清水満） 清水議員。

○1 番（清水均） よろしく願いいたします。次ですが、更新伐として使った建設資材をどう利用するかということですが、新庁舎は北国街道沿いに建てるため、庁舎そのものが観光の目玉になるような木材の使用とか、街道に面したところに木材を利用した宿場風のゲートにする等、役場庁舎が観光資源となるようなことはどうかということをご提案したいと思っております。町長にお伺いします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 今日設計事務所ですらいろいろ相談に来るようでございますけれども、県内では朝日村役場、または長和町役場が全面木材を使ったような建築で、庁舎を建てているという話は聞いておりますけれども、残念ながらという言い方はないですけど、木材を使った方が単価的には少しお高い品物になるということがネックでございます。

従って、補助をいただいても鉄骨の方が場合によれば安いなどということはあるわけですが、それはともかくとして、限られた予算の中で議員がおっしゃるような確かに魅力のある庁舎にはしたいわけですが、そこら辺の予算との兼ね合いも見ながら、精一杯、地域に相応しい庁舎というものを研究してまいりたいと思っております。

○議長（清水満） 清水議員。

○1 番（清水均） 次に最後になりますが、気象変動に伴う豪雨の緊急箇所対策についてでございます。

近年、集中豪雨が全国各地で発生し、甚大な被害が出ています。そこで、町としての緊急対応策についてお伺いいたします。

福井団地コミュニティセンターのグラウンドは、災害時の避難箇所とされております。また、下方には保育園の駐車場があります。そのグラウンドを支える盛土箇所の平板擁壁が崩壊しており、危険性が非常に高まってきております。

ブロック、または擁壁とする考えはないかについて、福井団地区長からも陳情しておりますが、その後の検討結果についてどうなったか町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） これは事務屋と深い対応については若干まだ流動的には動いているところですが、私、協議があった時点で、確かあのグラウンドは町有財産になっていると思っています。しかもその下に通っているのは町道でございます。保育園児も通園等々でその道を歩くということも十分あったり、そばの遠足ではないですが散策の時にも使うということを考えますと、町としてそこを見ていく義務があるような気がする、こういう担当に話をした経過もございますので、町の財産を維持していくという意味では、町は考えていかなければならないと思っております。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 次、括弧2として町道 M14 号線、長野信濃線から坂口に行くところですが、坂口集落の入口にある道路に沿った側溝、車道寄りのU字溝 300 型でございますが、その先が段差 15 センチぐらい付いたU側溝と言うのか、現場打ちでございますが、その水路で水はけができない状態であります。

U字溝から先の流末処理ができずに道路に漏れ、田んぼに流れることから道路とともに盛土箇所の崩落の恐れがあり、土のうを積んで崩落を防止している状態であります。

下方には簡易終末処理場があるため、早急に溜柵と横断側溝を入れて、田んぼ側の水路に流す対策を取る必要があると思っておりますが、これについても坂口の区長さんから再三にわたり陳情



していると思いますが、町長にお願いしたいと思います。

○議長（清水満） 森建設水道課長。

〔建設水道課長 森佳也 登壇〕

○建設水道課長（森佳也） 町単土木事業の申請されている町道 M1-14 号線、議員さんがおっしゃられた坂口浄化センターの入口付近のことと思います。

大雨に備えて申し訳ありませんが地区の方には土のう袋で今まで対応していただいていたわけですが、新年度、全線の道路排水の確認、それから横断暗きよの効果等を検討した上で実施の方向で考えております。よろしくをお願いします。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） よろしくお願いいたします。次、括弧3になります。町道 M3、236 号線、横手から天狗像の間に道路があるわけですが、そのU字溝が谷側に入っておりまして、冬期間に通行する場合、道路が狭いためU字溝まで除雪しています。

片勾配、カントが付いているものですから、どうしてもそちらの谷間の方に車が流れていってしまいます。そのためにU字溝にはまったりして、脱出不能な状態に陥ることがあります。

町長は、観光面の話は1つも出してこないわけですが、飯綱東高原やスキー場に行くための重要な路線であるため、落ちて大丈夫なU字側溝、若しくはグレーチング等を施工し、観光地に向かうアクセス道路を安全にしなければなりません、安全対策を講ずる必要があると思いますが、町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 時間もありますので端的にお答え申し上げますけれども、あそこは冬は本当に通らない方がいいのではないかとというくらい、非常に滑る、止まらない道路だと私は何回も経験をしておりますけれども、排水の末をどこへ持っていくかというような問題もあるというのと、非常に日陰で、あそこはどうやっても鏡のように光るような道路にはなっているわけですが、建設担当の方とも相談をして、精一杯の安全対策は整えたいと思っております

けれど、冬場は大変危険な道路だという認識は持っております。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） どうして谷側にU字溝が入ったのですか。建設課長。

○議長（清水満） 森建設水道課長。

〔建設水道課長 森佳也 登壇〕

○建設水道課長（森佳也） 私も何回か現場には行っていますが、どうしてあそこにU字溝を作ったと言われると、申し訳ございません、必要があったから作ったものとお答えできないです。申し訳ございません。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 上がるようなU L側溝、やれば良かったと思います。

以上で質問を終了いたしますが、議会だよりモニターアンケート結果の議会、町に対する要望、意見、お気付きのことはありませんかのコーナーは拝見していると思いますが、町民の皆様のご意見でありますので、大いに参考にしながら、行政と議会が切磋琢磨し、町民の皆様のご力を合わせて飯綱町づくりを進めていければと思っております。

議員の要望も取り入れていただいておりますが、飯綱町全体が一步一步前進するようお願いを込めて質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（清水満） 清水均議員、ご苦労様でした。

---

### ○散会の宣告

○議長（清水満） これにて一般質問の通告者は全て終了しました。

ここでお諮りいたします。

明日9日から21日までの13日間、本会議を休会したいと思います。

ご異議ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、明日9日から21日まで本会議を休会することに決定しまし